



TITLE:

言葉を支えるもの

AUTHOR(S):

山口, 巖

CITATION:

山口, 巖. 言葉を支えるもの. ことばの構造とことばの論理: 山口巖教授
停年記念論文集 1998: 763-759

ISSUE DATE:

1998-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65778>

RIGHT:

「京大教養部報」No. 78 1976年10月25日。

言葉を支えるもの

以前偶々英語を教えた事があった。その時定かではないが *He is looking at the last leaf.* というような表現があった。質問すると「現在進行形です」という。それはどういう働きをするものかと問うと、「ずっと見ていた」という意味だという。では *He looks at* では、と言え、彼は「それは進行形でないから継続していません」と答える。「それではチラッと見たのですか」と私。彼は「いいえ」という。ではこの二つの違いは、と聞かれてはじめて彼は考え込んだ。

英語が専門ではないからよくは判らないが、恐らく現実の事態としては両方共同じであろう。同じ事態が二つの表現を持ち得るとすれば、その原因は表現主体の側にあるに違いない。*is looking at* はあるいは「見る」行為に感じられる一種の執念のようなものを表現したかった為であったかも知れない。

ロシア語の *kurit'* 「喫煙している」と *zakurit'* 「喫煙し始める」の違いについてもほぼ同じ事が言える。前者はタバコを吸っている過程に着目したから用いたのであり、後者は過程のはじめに注目したから用いられたのだ、という訳である。

事実はタバコを吸いはじめることが、何等かの心理的な場面の転換点となっている時、*zakurit'* が用いられる例が多い、ということである。前綴 *za-* の持つ「始発」という論理的な意義は、何か「思いがけなさ」といったような、感性的なものによって支えられていると考えられる。言主が本当に伝えたいと考えているのは、むしろこの感性的なものなのであろう。論理的なものだけでものを解釈しようとすれば、それは暗号の解説にも似た、果てしなく味気ない作業となってしまうに違いない。

とは言え先入観にとらわれない、ということがどのようにむづかしい事か、日毎に強く感じるこの頃である。

(上掲の例は O'Henry の *The last leaf* を高校生用に書きかえたものでした。従って原文とは異っていると思います。為念) やまぐち いわお ロシア語